

頑張してほしいと、新潟県中越沖地震災害 対策本部に「奥入瀬源流水」を送りました



義援水の目録を手渡す市長

している被災者のかたがたを気遣いながら「復興に向けて、元気を出して頑張してほしい」と呼びかけ、目録を手渡しました。

奥入瀬源流水は、翌日被災地に届けられました。

7月18日、本市では新潟県中越沖地震による被災者を支援しようと奥入瀬源流水を送りました。

奥入瀬源流水は義援水としてペットボトル2ℓ3,000本（1ケース6本入り：500ケース）、500ml8,000本（1ケース20本入り：400ケース）が用意されました。

（財）ふるさと活性化公社職員や市職員によって、13トントラックに900ケースが積み込まれ、大きな被害を受けた柏崎市役所に設置された「新潟県中越沖地震災害対策本部」に送られました。

市長は連日余震が続いている中で、疲労



市民のみなさんへ

平成19年新潟県中越沖地震災害
義援金受け付け中

みなさんの温かいご支援をお願いします。

■市役所義援金窓口

受付時間 午前8時30分～午後5時
（土・日曜日、祝日を除く）

窓口・問い合わせ先

▷生活環境課

（本庁新館1階 ☎ ☎5111内線223）

▷総務調整課

（支所1階 ☎ ☎5111内線6223）

※義援金は、日本赤十字社青森県支部を経由して被災地に届けられます。

■十和田市社会福祉協議会義援金窓口

受付時間 午前8時30分～午後5時
（土・日曜日、祝日を除く）

窓口・問い合わせ先

市社会福祉協議会（☎ ☎232992）

※義援金は、青森県共同募金会を経由して被災地に届けられます。

この碑のなかには、「半年も蕙温泉に籠城したるつれづれに甲子（大正13年の意）春日」と刻まれていて、蕙温泉帖から転写拡大しています。大町桂月は、大正12年10月から翌年2月まで蕙温泉に滞在しています。大正13年3月には、2度目となる堅雪の八甲田登山のために再度蕙温泉を訪れますが、八甲田登山の数日後、炬燵で仮眠中に大やけどをしています。この時、桂月は自らの失態をひたすら宿の人々にわびたそうです。やけどの状況を見て、宿の女将はとても驚き、東京の自宅に連絡をしました。東京から長夫人が



「沼に舟うけ 姫鱒釣つて
風呂で月みる 山の中」

桂月の文学碑を訪ねて 15

看病のために蕙温泉を訪れ、約2か月間ともに過ごしています。桂月は歩くことができるようになると、夫人とともに近くの野山を歩き山菜採りを楽しんでいました。

桂月の日記に「余わらびとり 長むく 分担」と、夫人とともに好物のわらびを採り、食す幸せの歌が残されています。また、長夫人も桂月の没後、このことを回想して「去年の春 わらびに竹にうちつれて 山めぐりせし日のなつかしき」と歌を詠んでいます。

この碑は、平成11年に桂月生誕130年を記念して建立され、蕙温泉敷地内の桂月の胸像の裏手にあります。



蕙温泉の人々と、やけどのため足に包帯をした桂月と桂月夫人（左から4、5人目）
写真提供は室谷洋司さん

問い合わせ先

総務課（☎ ☎5111内線156）